

知ってる？

いざって時に 守ってる。

毎年、日本のどこかで必ずと言っていいほど起こっている災害。
台風は相変わらず心配なうえに局地的な豪雨が各地で頻発。
水害のリスクは高まっているといえます。

そこで
クイズです

大雨で増水した川から、
町を守っているモノとは？



堤防 ていぼう

1

堤防が壊れるなどの
災害が発生した時、
復旧活動の拠点となる施設とは？



河川防災 かせんぼうさい
ステーション

2

地域の川があふれそうな時、町を
守っているモノとは？



排水機場 はいすいきじょう

3

しかし

これだけ対策しているから安心...ではありません。

4

利根川下流河川事務所では、洪水被害から町を守るために、堤防や排水機場、河川防災ステーションを整備し、それを維持管理し、日々河川パトロールを行っています。しかし、**堤防や排水機場を整備中に増水したり、想定を超える大雨が長時間降ることも考えられます。**

また、市町村では避難所や資機材を準備したり、洪水ハザードマップを整備したり、災害時には注意喚起や非難勧告を行っていますが、**避難所や洪水ハザードマップを知らない、避難できない状況になることも考えられます。**

だから

- あなたの町の「洪水ハザードマップ」を入手。..... 4
- 避難所の場所、避難所までのルートをチェック。..... 5
- 非常時の持ち出し品リストを作り、平常時から準備を。..... 6
- 災害時の注意喚起や避難勧告に耳を傾けて。..... 7
- リアルタイム情報をあらかじめチェック。..... 8
- ご近所や地域の方々と助け合って避難を。..... 9

大雨で増水した川から、
町を守っているモノとは？

堤防

利根川の流域

流域とは、河川に流れ込んでくる水となる雨が降る土地の範囲のことです。

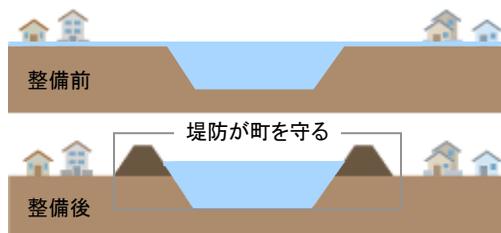
利根川の流域は下の図の緑で囲まれた群馬県や栃木県、茨城県、千葉県などを含む範囲になり、16,480km²と日本の河川で1番広いものになっています。

このような広い流域に大雨が長時間降ると、たくさんの雨水が利根川に集まることになります。



堤防の役割とは

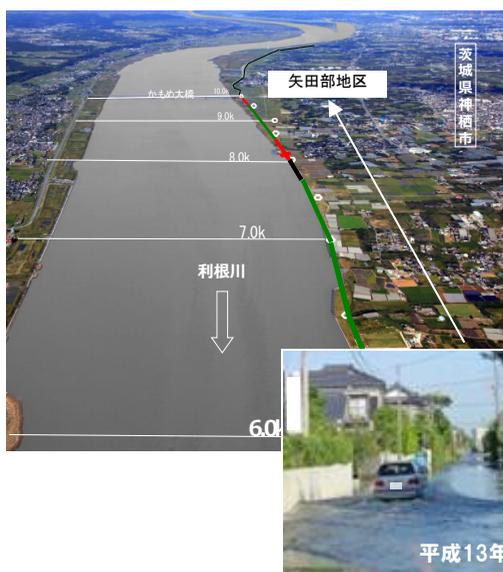
堤防は、増水した川の水を安全に流し、川の周辺に浸水被害が及ぶことを防ぐための構造物です。



利根川下流河川事務所の築堤事業

利根川の下流部には堤防のない区間が残っており、過去に、増水により浸水被害が発生した所があります。

利根川下流河川事務所では、堤防のない別所地区（茨城県神栖市）、富川地区（千葉県銚子市）で堤防を作る工事を実施しています。



堤防が壊れるなどの
災害が発生した時、復旧活動
の拠点となる施設とは？



か せん ぼうさい 河川防災 ステーション

河川防災ステーションとは

堤防が万一決壊すると、広い範囲で甚大な被害が想定されます。災害が発生した時に堤防の被害を最小にする活動の拠点となるのが、河川防災ステーションです。ヘリポートや資材の準備・搬出作業を行う水防ヤードなどが整備されています。災害のない平常時には、コミュニティスペースなどさまざまな用途に利用されます。



出典：
国土交通省ホームページ

●水防活動ってなに？

洪水などが起きたときに、人命や財産を守るため、その地域に住んでいる人々がさまざまな技術で被害を最小限に食い止めようとする活動のこと。

水防団員の多くは別に仕事もち、そのかわり、平時の予防・防災活動や洪水時の防災活動に従事しています。

利根川下流河川事務所の河川防災ステーション事業



佐原地区河川防災ステーション（水の郷さわら） の平常時利用

防災教育展示室では、利根川下流部の洪水ハザードマップや、堤防の破堤実験、利根川の歴史などを見ることができます。
(見学無料)



はいすいきじょう

排水機場

地域の川があふれそうな時、町を守っているモノとは？



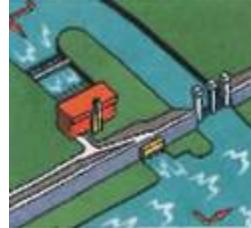
排水機場とは

上流に降った大雨で大きな川が増水すると、地域を流れる川に水が逆流してあふれてしまうことがあります。その様な時には水門を閉じて増水した水の逆流を防ぎます。しかし、地域の川によっては、水門を閉じている間に降った雨がたまってあふれてしまいます。

排水機場は、この様な浸水の危険がある所で地域の川の水を大きな川へ排水するための施設です。



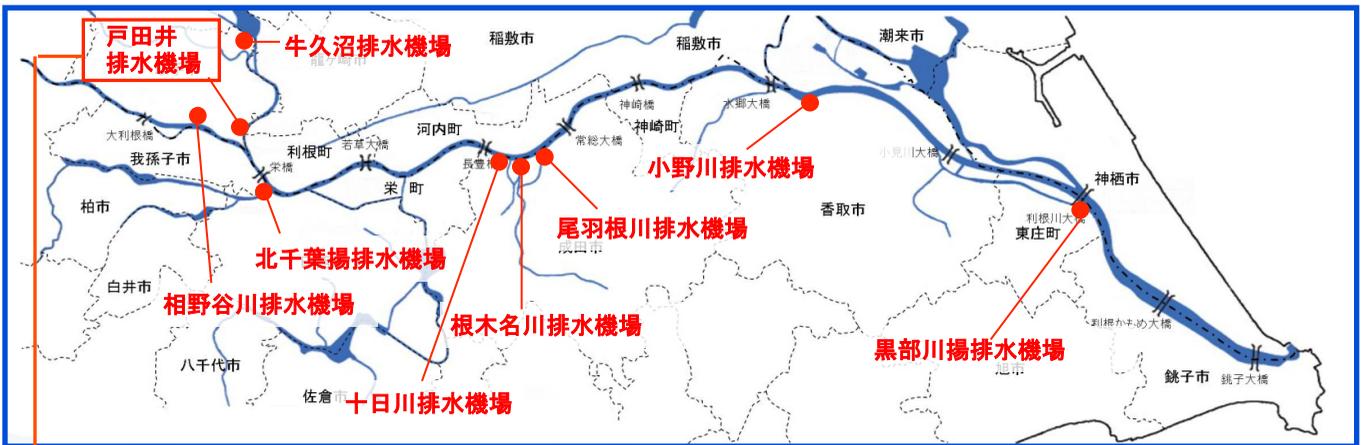
①平常時は支川の水は本川に流れていきます。



②本川が増水した時は、水門を閉じて支川にたまった水を排水機場のポンプで本川に排水します。

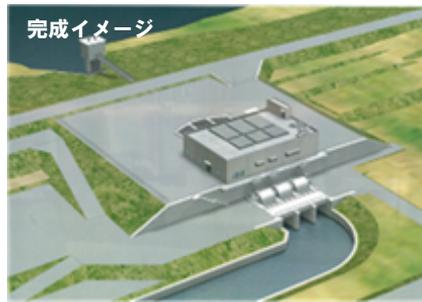
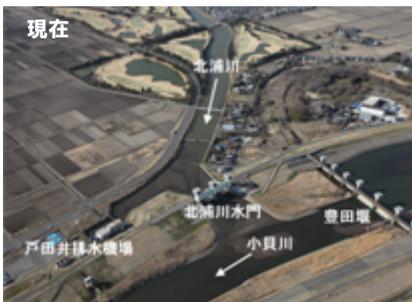
利根川下流河川事務所の排水機場事業

利根川下流河川事務所では、多くの排水機場を管理しています。



戸田井排水機場の改築工事

戸田井排水機場（茨城県取手市）は、昭和38（1963）年に設置され、50年近くが経過しています。そのため、建物やポンプ設備が老朽化したことから、平成24年度から改築工事を実施しています。



仮に、平成5（1993）年8月の台風11号規模の洪水（10年に一度起こりうる洪水）が起こったと想定した場合、戸田井排水機場があることにより、427戸の浸水家屋が減少すると見込まれています。

平成5年8月型洪水(10年に一度起こりうる規模)における排水機場があることの効果

これだけ対策しているから安心...ではありません。

あなたの町の「洪水ハザードマップ」を入手。

●洪水ハザードマップとは？

洪水予報等の伝達方法、避難場所や避難ルートなど、洪水時に円滑かつ迅速に避難してもらうことを目的として作られた地図です。

地図のベースになっているのは、浸水想定区域図（しんすいそうていくいきず）。それぞれの河川で過去に起こった大きな洪水と同じ規模の洪水が来た場合を想定して、浸水の広がりや水深を示したものです。

浸水想定区域図は国が作成し、洪水ハザードマップは自治体が作成します。



●洪水ハザードマップの入手方法

まずは、お住まいの自治体のホームページで、または国土交通省ハザードマップポータルサイト「あなたの町のハザードマップ」で探してみてください。

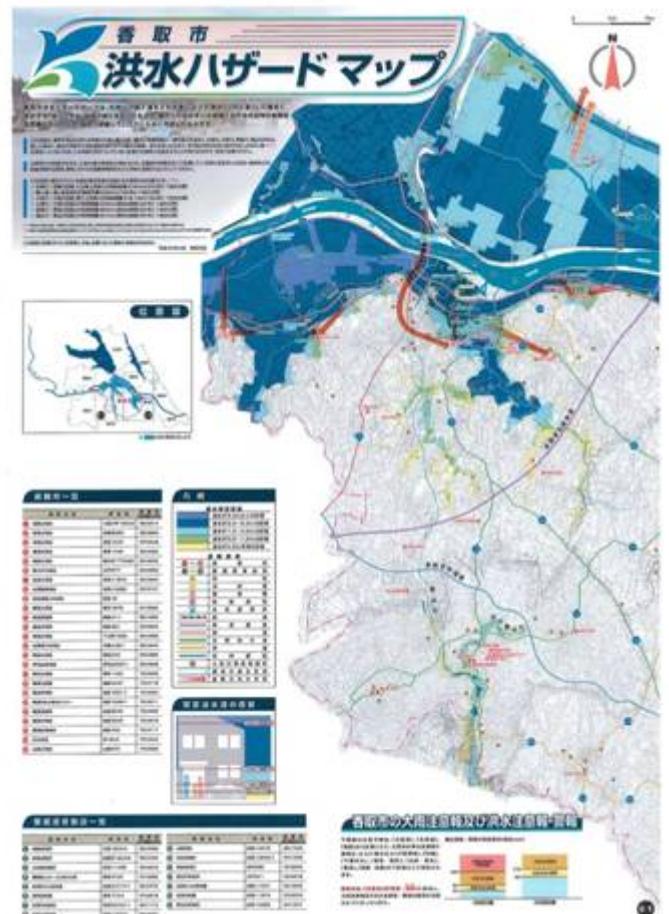
●洪水ハザードマップに載っている情報

自治体によって違いはありますが、主に次のような情報が掲載されています。

- ・避難所の位置・住所
- ・避難所までの方向
- ・想定される浸水の広がり
- ・想定される水深
- ・非常用持ち出し品のリスト など



<http://disaportal.gsi.go.jp/>
利根川下流河川事務所のHPからもアクセスできます



水深(色で深さを示す)

浸水の広がり

避難の方向

避難場所

出典：香取市ホームページ

これだけ対策しているから安心...ではありません。

避難所の場所、避難所までのルートをチェック。

●洪水ハザードマップで確認を

洪水ハザードマップを平常時からチェックしておくことで、洪水時にスムーズに効率的に避難することができます。そのためにも、自分の家や実際に避難所の場所や、そこまでのルートを把握しましょう。

●避難ルートを予習しておくにより一層効果的

実際に避難所までのルートを歩いてみると、より安全に避難できます。

次のようなポイントを見ながら歩いてみてください。

- ・地形の高低
- ・フタのない水路
- ・マンホールなど浸水したときに見えなくなって、危険と思われるもの
- ・浸水しないフロアのある高台や建物
- ・土砂崩れが起きそうな場所、暴風になると倒れそうな構造物や樹木など



最短距離が安全とは限りません。遠回りでも高い場所を通るほうが安全に避難できる場合もあります。災害時を想定して避難ルートを検討しましょう。



高い場所、低い場所を知っておくと、避難時に低い場所は避けて通る・避難所にたどり着けないとき緊急に高い場所へ避難するなどの判断材料になります。



マンホールも浸水すると見えなくなります。フタが浮いて落とし穴状態になり、落ちることがあります。



高台や高層の建物は、避難所にたどり着けない場合などには、緊急の避難場所になります。



フタのない用水路は、浸水すると見えなくなるので、避難中に足を取られ、おぼれたりケガをしたりします。



雨や暴風で崩れたり倒れたりしそうな場所を知っておくと、より安全に避難することができます。

これだけ対策しているから安心...ではありません。

非常時の持ち出し品リストを作り、平常時から準備を。

●各家庭に合わせた持ち出し品リストをカスタマイズ

下のリストを参考に、家族構成や生活状況に合わせたリストを作成し、持ち出し品を準備しておきます。年に一度は取替えを行い、いつでも使えるようにしておきましょう。

非常時の持ち出し品・備蓄品 チェックリスト

災害後の救助や
救援物資の到着までに、
最低限必要なものは
準備しておきましょう。



ポイント

- 非常持ち出し品は、両手が使えるリュックタイプの袋などにまとめておきましょう。
- 避難の妨げにならないように、軽くコンパクトにまとめましょう。
- 自分や家族の状況に応じて必要なものを選びましょう。
- 自分に必要なものの優先順位を決めて準備しましょう。
- 定期的に中身をチェックしましょう。

貴重品

- 現金(小銭を含む)※公衆電話用に10円玉、100円玉
- 車や家の予備鍵
- 予備の眼鏡、コンタクトレンズなど
- 銀行の口座番号・生命保険契約番号など
- 健康保険証
- 身分証明証(運転免許証、パスポートなど)
- 印鑑
- 母子健康手帳



情報収集用品

- 携帯電話(充電器を含む)
- 携帯ラジオ(予備電池を含む)
- 家族の写真(はぐれた時の確認用)
- 緊急時の家族、親戚、知人の連絡先
- 広域避難地図(ポケット地図でも可)
- 筆記用具



食料など

- 非常食
- 飲料水



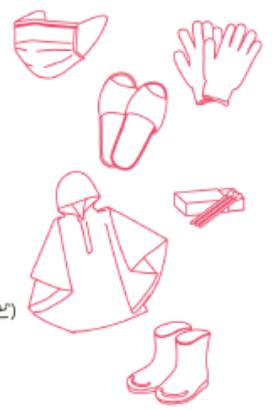
便利品 など

- 防災ずきんかヘルメット
- 懐中電灯(予備電池を含む)
- 笛やブザー(音を出して居場所を知らせるもの)
- 万能ナイフ
- 使い捨てカイロ



清潔・健康 のための もの

- マスク
- ビニール袋
- アルミ製保温シート
- 毛布
- スリッパ
- 軍手か皮手袋
- マッチかライター
- 給水袋
- 雨具(レインコート、長靴など)
- レジャーシート
- 簡易トイレ
- 救急セット
- 常備薬・持病薬
- タオル
- トイレ用ペーパー
- 着替え(下着を含む)
- ウェットティッシュ



その他

- 紙おむつ(幼児用・高齢者用など)
- 生理用品
- 粉ミルク・哺乳瓶(赤ちゃんに必要なもの)
- その他自分の生活に欠かせないもの



ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

出典：日本赤十字社ホームページ

これだけ対策しているから安心...ではありません。

災害時の注意喚起や避難勧告に耳を傾け、正しく行動を。

●自治体からの情報を注意して聞き、また積極的に入手

災害時に住民の皆さんに向けて、注意喚起や避難勧告などを発信するのは、お住まいの自治体です。各自治体によって違いはありますが、主に次のような手段で行っています。各自治体がどのように情報を発信しているのかをあらかじめ調べておきましょう。

- ・ 広報車
- ・ 防災行政無線
- ・ 携帯メール
- ・ ホームページ など



●情報の種類

避難勧告、避難指示、避難準備情報

	発令時の状況
避難準備情報	要援護者等、特に避難行動に時間を要する方が避難行動を開始しなければならない段階。人的被害の発生する可能性が高まった状況。
避難勧告	通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階。人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。
避難指示	災害の起こる前兆とみられる現象の発生や切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害が発生する危険性が非常に高いと判断された状況。

要援護者とは：次のどれかに該当する災害時の支援を必要とし、支援を受けるために必要な個人情報地域民生委員・児童委員、自主防災組織などに提供することに同意した方のことをいいます。
・ひとり暮らしの高齢者 ・高齢者のみの世帯 ・介護保険の要介護認定で、要介護3以上の判定を受けている方 ・身体障害者手帳を所持し、等級が1級または2級の方 ・療育手帳を所持し、区分がAの判定を受けた方。

洪水予報

気象庁が一般向けの注意報・警報として発表する洪水注意報や洪水警報とは別に、あらかじめ指定した河川について、区間を決めて水位または流量を示して行う洪水予報のことです。これを正式には「指定河川洪水予報」といい、利根川も指定河川のひとつです。情報の種類としては、**はん濫注意情報、はん濫警戒情報、はん濫危険情報、はん濫発生情報の4つ**があり、「〇〇川はん濫注意情報」などと発表されます。

●洪水予報の入手方法：洪水予報は市町村や報道機関を通じて地域住民の方々へ伝えられます。気象庁ホームページや各関係機関・自治体のホームページからも閲覧することができます。

気象警報・注意報

気象庁は、大雨や強風などによって

- ・災害が起こるおそれのあるときは「注意報」
- ・重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」
- ・重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「特別警報」

を発表して注意や警戒を呼びかけます。

●発表中の気象警報・注意報の入手方法：気象庁ホームページのほか、「国土交通省防災情報提供センター」の携帯電話サイトのほか、市町村や民間気象会社等においても、インターネットや携帯電話向けの情報を提供しているところがあります。また、テレビやラジオなどでは特別警報や警報が発表された場合に放送されるほか、ニュースや天気予報番組で気象警報・注意報の発表状況が放送されます。

これだけ対策しているから安心...ではありません。

リアルタイム情報をあらかじめチェック。

●災害時に役立つ情報

いざという時、お住まいの地域の雨量や水位の状況を知ることは、避難するタイミングの判断などに役立ちます。被害を最小限に抑えるためにも、平常時からチェックしてみてください。



<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonege/tonege00099.html>

利根川下流河川事務所のホームページ

利根川下流域の水位・雨量観測所のデータをリアルタイムで見ることができます。



<http://www.river.go.jp/>

川の防災情報

全国の雨量、水位、水質、積雪などのリアルタイムデータを見ることができます。



<http://www.river.go.jp/xbandradar/>

XバンドMPレーダー雨量情報

近年の豪雨対策として、より早く、より詳細に観測できる、雨量情報を見ることができます。



地上デジタル放送による河川防災情報

NHK地上デジタル放送（データj放送）において、リアルタイムで近くの河川の雨量や水位を確認することができます。リモコンのdボタンを押して「河川・水位情報」を選択してください。

これだけ対策しているから安心...ではありません。

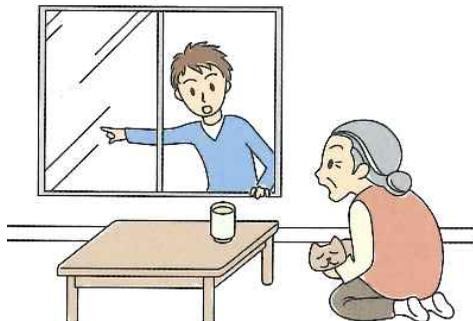
ご近所や地域の方々と助け合って避難を。

●高齢者や子どもの避難誘導、救助を行うなど、周りの人たちと助け合いましょう

地域で助け合うことは、被害を最小限に抑えることにつながります。

避難時には、次のように行動しましょう。

- ・ひとり暮らしのお年寄りが近所にいたら、声をかけて一緒に避難する
- ・お年寄りや子どもの避難誘導をする
- ・ご近所などと一緒に、なるべく複数で行動する



出典：荒川下流河川事務所「災害対策ガイドブック」

そのためには、日ごろからご近所の方々や地域で話し合う、地域の防災対策を知るなどが重要になります。

- ・日ごろから地域で避難行動するときはどうするか話し合う
- ・地域の避難訓練には積極的に参加する
- ・自主防災組織に積極的に参加する、または協力する

